

「知ろう！味わおう！個性輝く岩手のお米」出前授業を開催

令和3年11月30日、一関農林振興センターでは、管内の米の主力品種である「金色の風」、「銀河のしずく」、「ひとめぼれ」について地元での理解醸成のため、一関市立桜町中学校の2年生104名に出前授業を開催しました。

鈴木所長のあいさつ後、地域の生産者を代表して「金色の風」については、小野寺俊行さん、「銀河のしずく」については槻山隆幸さん、「ひとめぼれ」については、遠藤清行さんに、それぞれの品種の生い立ちや食味の特徴等について説明をしていただきました。「金色の風」と「銀河のしずく」は、岩手県が開発したオリジナル品種です。

その後、生徒さんが、一口大のおにぎりを試食し、見た目、香り、食感、おいしさの4項目を審査しました。その結果、3品種ともほぼ同数で、好みが分かれる結果となりました。

生徒さんからは、「普段は、米の味をあまり気にせず食べていたけど、食べ比べると品種に違いがあることが分かった」という声や「地元でもたくさん品種が栽培されていることを知ることができた」等という感想を聞くことができました。

桜町中学校は、今年も学校独自に「金色の風」でバケツ稲にも挑戦するなど、米作りに興味を持って取り組んでおり、今回の出前授業により一層地域の米作りや県のオリジナル品種に関心を持っていただけたと感じました。



試食の様子



試食したおにぎり